

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-232	高等学校	外国語	コミュニケーション英語II	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
2 東書	コII 328	PROMINENCE English Communication II		

## 1. 編修の基本方針

基本方針

1

「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能が有機的に統合された言語活動を行うことができるようにする。

「聞く」「話す」「読む」「書く」言語活動を有機的に統合させるため、「読んだり聞いたりした内容」について「書いたり話し合ったり」する言語活動を設定した。すなわち、「各Lessonの本文で読んだり、Warm UpやCommunication Activity (Listening)で聞いたりした内容」について、「Communication Activityや各Unit末のCommunication Explorer (In Depth!)で話し合ったり書いたり」できるようにした。また、そのためのステップとしてComprehension, Exercises A~D, Listening Explorerを設けた。

基本方針

2

生徒自身がメッセージの能動的な受信者であると同時に、主体的な発信者となるような言語活動を英語で行うことができるようにする。

「読む」「聞く」言語活動を、生徒の一方的な受容活動としてだけではなく、「題材の原著者ならびに本書編集委員会」のメッセージを生徒が主体的に受け止め、さらに生徒自身の考えを発信するという能動的活動としてとらえた。この目的が達成できるよう、生徒に伝えるべき豊かなメッセージを備え、かつ生徒自らがメッセージの発信者となるようなインパクトを備えた題材を、生徒に親しみやすい日常的な話題の中から厳選して掲載した。

基本方針

3

英語を通じてコミュニケーション能力が自然に身につけられるような学習の流れを紙面化し、多様な学習活動を通じて英語学習に取り組む自信を生徒に与えることによって、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養えるようにする。

英語を通じてコミュニケーション能力を養うことのできる指導の流れを具体化するため、各項目の構成を工夫した。特に、Lessonを構成する学習項目、Warm Up, 本文, Comprehension, Communication Activity, Grammar, Exercises, Listening Explorer, Communication Explorerは、この目標を達成するための流れを配慮して配列した。各項目には多種多様なジャンルに沿ったコミュニケーション用タスクが用意されており、これらの作業を通して授業への参加意識を培いながら学習上の達成感を体験させることで、体感的に英語学習のコツが身につくようにした。

2. 対照表		
図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
Lesson / Reading	①文法・発音などの学習を通して、言語の構造に対する理解を深めさせる。(第1号)	全般
	②コミュニケーションにおける精神的態度としての「共感力」について、「傾聴」の重要性と日本の伝統文化の1つである「茶道」を例に取り上げ、異文化間や異世代間において積極的にコミュニケーションを図る態度を養う。(第1号)	Lesson 1
	③身近な生活や文学や詩で語られる if という言葉の効用について考える。自らも詩人である著者から語られる生活に密接した問題から、マザーグースやシェイクスピアなどの古典作品で使われる if という言葉の効用を通して、創造性と教養を身につけ、豊かな情操と道徳心を養う。(第1号)	Lesson 10
	④ニューヨーク市内の高架貨物廃線を転用した空中公園ハイライン。その完成の背景には2人の若者の提唱によって、多くの支援者やボランティアを巻き込みながら行政を動かした経緯がある。地域に根差した活動が生んだグローバルリーダーの模範として、自主・自立の精神と生活の場を第一に考える態度を養う。(第2号)	Lesson 2
	⑤4技能を総合的に活用する自己表現活動を通して、他人の価値観や意見を尊重しながら、自分の考えに基づいて積極的にコミュニケーションを図る態度を養う。(第2号)	全般
	⑥日本中至る所に立ち並び張り巡らされている電柱と電線。それらと同様に、自動販売機や看板を通して日本の景観と都市の再生について考える。人口減少と高齢化、空き家の増加とインフラの劣化など、転機を迎えている日本を住みよい社会に変えていくためのディスカッションを通して、主体的に社会の形成に参画する態度を養う。(第2号)	Lesson 9
	⑦禅の精神にも通じる近藤麻理恵氏の片付け術が世界で注目され、多くの人々に影響を与えている現象を通して、生徒の生活にとって身近な片付けについて考えさせる。伝統と文化を尊重しながら、職業及び生活との関連を重視する態度を養う。(第2・5号)	Lesson 6
	⑧確固たる信念に基づいて行動し、教育の大切さを訴えた2015年ノーベル平和賞受賞者マララ・ユスフザイ氏。彼女のスピーチを通して、真理を求める態度と自主・自律の精神を涵養する。(第2・3号)	Lesson 7
	⑨自らの戦争体験から生きる意味を問いつけた作家トーベ・ヤンソン氏。小説「ムーミン谷の仲間たち」と「ムーミン谷の彗星」を取り上げ、真の平和と自他の敬愛を重んずる態度を養う。(第3号)	Lesson 8
	⑩原始地球の姿を探るために極地の生態系を調査する田邊優貴子博士。南極での科学的発見を通して地球と生命の神秘と自然への畏敬に触れさせ、生命を尊び、環境の保全に寄与する態度を養う。(第4号)	Lesson 3
	⑪クラゲの姿や生態の紹介から、その存在が人間生活へ及ぼしている影響に至る多彩なエピソードを通して、人間と他の生物との共生について考え、環境の保全に寄与する態度を養う。(第4号)	Lesson 5
	⑫日本文化として海外でも人気を博す盆栽。日本独自の美の基準だけではなく、他国の様々な形式を寛容することも文化の継承であるという視点を提供して、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う。(第5号)	Lesson 4
コラム類	①Listening Explorer では、英語の基本的な文構造や発音などの学習を通して、日本語とは異なる言語の特色に気づき、理解しようとする態度を養う。(第1号)	Listening Explorer 1~5
	②Communication Explorer では、実践的な言語の使用場面を踏まえたコミュニケーション活動を行い、実生活に活かすことができる力を養う。(第2号)	Communication Explorer 1~5

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色		
観点	留意点	具体例
①教育基本法の遵守	上記「3.対照表」に明記したとおり，教育基本法の遵守を踏まえ，編修の基本方針を設定した。	全般
②学習指導要領の遵守	①学習指導要領を踏まえて各Unitのジャンルを設定した。 ②生徒が自ら英語で発信する活動を豊富に取り上げ，コミュニケーション能力の涵養を目指した。	全般
③内容・配列・分量	①4技能の活用を有機的・段階的に行うことができるよう内容のレベルに傾斜をつけて題材を選択・配列した。 ②各Lessonは，写真資料などからの導入，理解，演習，整理，発展の順に編集されており，効率的かつ効果的に学習できるように配慮した。	全般
④評価（CAN-DO）	①各Unitの学習目標を目次に明示した。 ②Communication ExplorerのIn Depth!において上記①で示された目標の達成度を図るためのチェックポイントを配置した。	①目次 ②Communication Explorer 1～5
⑤英語で授業を行うための配慮	①英語による授業を促進し，これを実現するために，Grammar関連事項とListening Explorer，Communication Explorerを除いて，指示はすべて英語によることとした。 ②原則として『アドバンストフェイバリット英和辞典』（東京書籍）に準拠し，アメリカの標準的な発音で表記した。発音されることもあり，発音されないこともある音はイタリック体で表記した。	全般
⑥コミュニケーション英語Iとの関連	①コミュニケーション英語Iでの既習語487語に加えて，新語を775語（固有名詞除く）とした。 ②文法面では，生徒への学習負担を鑑み，コミュニケーションIで扱った文法項目のうち，生徒の学習において定着度の低い文法項目については再掲した。	全般 Lesson 7など
⑦伝統・文化の取り上げ方	日本の伝統・文化に関する話題を取り上げ，我が国の伝統・文化への意識を高め，日本の伝統文化への正しい認識を培い，日本を世界に紹介しようとする態度を育てる。	Lesson 4 Lesson 6 Lesson 9
⑧自然科学の取り上げ方	南極の生態系を調査する田邊優貴子博士や，クラゲの展示普及に尽力した加茂水族館長の村上龍男氏，ノーベル賞を受賞した下村脩博士の姿などを通して自然科学への興味を喚起する。	Lesson 3 Lesson 5
⑨家庭学習・自学自習への配慮	巻末に読解のテクニックを示した。	巻末
⑩文字・印刷・製本	①鮮明で美しい写真，読み易い活字を使用した。 ②製本は堅牢で，開きやすい様式とした。 ③図やグラフの色使いなど，色覚特性への配慮を含むユニバーサルデザインとした。	全般

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-232	高等学校	外国語	コミュニケーション英語II	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
2 東書	コII 328	PROMINENCE English Communication II		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

### 1. 全体構成

#### a. 5Unit構成

全体を5Unit構成とし、各Unitのジャンルを、Unit 1「エッセイ」、Unit 2「インタビュー」、Unit 3「プレゼンテーション」、Unit 4「スピーチ」、Unit 5「ディスカッション」とした。ジャンルに応じて、各Unitの目標をUnit 1「エッセイを書くことができる。」、Unit 2「インタビューを行うことができる。」、Unit 3「プレゼンテーションをすることができる。」、Unit 4「スピーチをすることができる。」、Unit 5「ディスカッションをすることができる。」と設定した。

#### b. 各ジャンルのモデルLessonと活動Lessonの振り分け

各Unitの奇数Lessonの本文は該当するジャンルのモデルとなっている。奇数Lessonで各ジャンルのモデルとなるフォーマットを学び、偶数Lessonでは、各ジャンルの実践的な学習活動をCommunication Activityで行うことを基本的なコンセプトとしている。

### 2. Lesson

#### a. 扉ページの写真

本文の内容を想起させるような写真を配置し、リスニングと組み合わせて生徒の題材へのスキーマを活性化させることにより、本文内容にスムーズに入っていけるよう配慮した。

#### b. Warm Up

各Lessonの題材に関する導入部のリスニング。写真やイラストを見ながら、リスニングができるようにした。

#### c. 本文

本文には「内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句」を自然な文脈の中に盛り込んだ。話のまとまりごとに4～5パートに分割し、授業の流れに応じて学習できるようにした。本文は5行ごとに行番号をつけた。また、脚注に示した「ターゲットとなる文構造・文法事項」の初出箇所をG-1, G-2 ... というように目印となる記号を付した。

#### d. 傍注

本文中の重要な熟語・連語表現などを取り上げ、該当箇所の左右に示した。

#### e. 脚注

「傍注で取り上げた熟語・連語表現などの例文」「ターゲットとなる文構造・文法事項と例文」「内容理解の設問(=Q)」「より深い内容理解の設問(=FQ)」を示した。例文は本文の話題と内容的に関連したものを基本とし、言語材料の表す意味内容の理解と言語形式の定着を図るために役立つよう工夫した。また、QやFQを通して「読んだり聞いたりした内容について話し合う」活動を促すようにした。

#### f. Did You Know?

写真やイラストとともに、本文の背景知識や発展内容をキャプションで示し、本文内容の理解をより深め、英語で言語活動を行う際の材料にもなるように工夫した。

### 3. Comprehension

「概要や要点をとらえたりする」言語活動を用意した。

Aは「情報を表などにまとめる」設問を基本とした。これになじまない内容のレッスンについては、それぞれに適した内容理解の設問を用意した。

Bはいくつかの選択肢から、本文内容に合う文を選ぶ形式の問題とした。

Cは本文の内容を要約する言語活動を用意した。「内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら」書けるよう工夫した。

#### 4. Communication Activity

1つめのListening は本文に関連する内容を聞き取る活動、2つめの活動は、それぞれUnitに応じて異なっている。Unit 1はRetelling & Writing, Unit 2はInterview, Unit 3はPresentation, Unit 4はSpeech, Unit 5はDiscussionを題材の内容に応じて行う。

#### 5. Grammar

ターゲットとなる文構造・文法事項を例文とともに解説したが、文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けて指導できるよう工夫した。言語材料が実際の場面でどのように使われるかを理解し、実際に活用することを重視するために、場面別の会話の中でどのようにその文法事項が使われているかを見るIn Useを新設した。言語材料の分析や説明は必要最小限にとどめた。

#### 6. Exercises

本文に出てきた文構造・文法事項、および熟語・連語表現などについての練習問題を設けた。

#### 7. Listening Explorer

聞き取りのコツを、わかりやすく親しみやすい例を使って説明した。In Depth! は、そのコツの確認を行う場とした。

#### 8. Communication Explorer

RetellingやPresentationにおけるコツを示した。In Depth! は、そのコツを実際に援用しながら、各Unitで学習した内容を英語で発信するための実践的課題を提示した。

#### 9. Optional Reading, Lesson for Recitation

すべての生徒が学習することを前提としない選択的な教材と位置づけ、Lessonとは異なるタイプの読み物を掲載した。ここでは特に「説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する」活動がしやすい題材を選んだ。

#### 10. 付録

Word ListおよびPhrase Listでは本文で扱った新出語および熟語・連語表現の初出箇所を示し、学習・指導上の便宜を図った。

### 題材一覧

ユニット／ジャンル	Lesson	タイトル	言語材料	語数
Unit 1 Essay	Lesson 1	Power of Empathy	S + V + O (O = ifまたはwhetherで始まる節) / 受け身 (完了形)	602
	Lesson 2	Come and Visit the Park in the Sky!	比較級を修飾するfar / 現在完了進行形	641
Unit 2 Interview	Lesson 3	A Window to Ancient Earth	S + be 動詞 + C (C = whether/whatなどで始まる節) / 関係副詞の非制限用法	775
	Lesson 4	Bonsai Goes Global	倒置 / 独立分詞構文	738
Optional Reading 1		Long Walk to Forever		1,310
Unit 3 Presentation	Lesson 5	Taking the Sting Out of Jellyfish	No matter + whatなどで始まる節 / 完了不定詞	769
	Lesson 6	Does It Spark Joy?	未来進行形 / 習慣を表すwould	820
Unit 4 Speech	Lesson 7	Malala's Fight for Education	S + V + O + C (C = 過去分詞) / 前置詞 + 関係代名詞	1,038
	Lesson 8	Welcome to the World of Tove Jansson	先行詞を含んだ関係副詞 / 受け身のto不定詞	826
Lesson for Recitation		The Great Dictator		811
Unit 5	Lesson 9	A Country of Poles and	節を指す形式目的語のit /	1,069

Discussion		Signs	助動詞doによる動詞の強調	
	Lesson 10	How to Use "If"	if S were to <i>do</i> / if S should <i>do</i>	1,167
Optional Reading 2		Today You, Tomorrow Me		849

## 2. 対照表

図書構成・内容	学習指導要領の内容						箇所	配 当 時 数
	第2款		第3款 1		第3款 2	第4 款		
	(1)	(2)	使用場面	働き				
Lesson 1	ア・イ・ ウ・エ	イ・ウ	b,	a, c, e	イ	2(1)	pp.6-17	6
Lesson 2	ア・イ・ ウ・エ	イ・ウ	b, c	a, c, d, e	ウ(カ)	2(1)	pp.19-31	6
Lesson 3	ア・イ・ ウ・エ	イ・ウ	a, b,	a, c, e	イ, ウ(ウ)	2(1)	pp.33-47	6
Lesson 4	ア・イ・ ウ・エ	イ・ウ	a, c	a, c, e	ウ(ク)	2(1)	pp.49-61	6
Optional Reading 1	イ・ウ・エ	ア・イ・ ウ	b	a, b, c, d, e		2(1)	pp.63-70	2
Lesson 5	ア・イ・ ウ・エ	イ・ウ	a, c	a, b, c, e	ウ(ア)	2(1)	pp.71-83	8
Lesson 6	ア・イ・ ウ・エ	イ・ウ	a, c	a, b, c, e	ウ(エ, カ)	2(1)	pp.85-97	8
Lesson 7	ア・イ・ ウ・エ	イ・ウ	a, c	a, b, c, d, e	イ, ウ(イ)	2(1)	pp.99-111	8
Lesson 8	ア・イ・ ウ・エ	イ・ウ	a, c	a, b, c, d, e	ウ(ウ, ア)	2(1)	pp.113- 125	8
Lesson for Recitation	イ・ウ・エ	ア・イ・ ウ	a, c	a, b, c, d, e		2(1)	pp.127- 132	4
Lesson 9	ア・イ・ ウ・エ	イ・ウ	a, b, c	b, c, d, e	ウ(エ)	2(1)	pp.133- 147	8
Lesson 10	ア・イ・ ウ・エ	イ・ウ	a, b, c	a, b, c, d, e	ウ(キ)	2(1)	pp.149- 165	8
Optional Reading 2	イ・ウ・エ	ア・イ・ ウ	a, b	a, b, c, d, e		2(1)	pp.167- 172	2
読解のテクニック1		イ・ウ					pp.174- 175	2
読解のテクニック2		イ・ウ					pp.176- 177	2
読解のテクニック3		イ・ウ					pp.178- 179	2
読解のテクニック4		イ・ウ					pp.180- 181	2
読解のテクニック5		イ・ウ					pp.182- 183	2
読解のテクニック6		イ・ウ					pp.184- 185	2
合計92時間								